

このほど開かれた関西財界セミナーでは、地方自治体改革を議題の一つに取り上げ、行財政改革の実現には、「徹底した情報公開で住民の自治意識を高める」ことが必要との認識で一致した。情報公開の取り組みに対する評価が高い岡山市の萩原誠司市長(48)に聞いた。

【聞き手・江南護、写真も】

——情報公開に熱心ですね。

◆私の交際費は、プライベート保護の面から非公開にしている。病氣

## 情報公開こそ民主主義

萩原誠司・岡山市長



### 市民協働でまちづくり

見舞金の相手先個人名を除外して、すべてを岡山市のホームページで公開している。情報公開制度は、

パソコンで申請して交付も受けられるので、世界どこからでも入手できる。一度公開と判断した

約2年前、1期目の任期が切れる直前だった。工事費などの執行は、130万円未満なら課長

決裁でできる。その中に妙な工事があった。それで、監査委員会に請求した。これをきっかけに、

工事の内容などをホームページで公開するようにした。

——情報公開に熱心な理由は。

◆民主主義だ。情報が幅広く公開すれば、市民が行政に参加できる。まちづくりに「市民協働」が求められている。現状や経過など市民が知らない、判断できない。

——過剰な福利厚生など大阪市はさまざまな問題が噴出しています。

◆効率性を見る職員1人当たりの人口(多い方が効率的)は、岡山市は107人。短期目標として113人を目指している。大阪市の場合は50人台だ。こういうことは、(市政への)職員の影響が大きいことを意味する。